

森林公園に「別の顔」

災害救助犬 特訓の場



津幡町の県森林公園内
「被災地」を再現した訓練施設
廃材を山積みにして家屋が倒壊した

津幡町の県森林公園では、春の新芽が伸び、散策にもってこいの時節だ。広大な敷地は癒やしの場だが、あまり知られていない「別の顔」もある。それは日本最大級の災害救助犬訓練施設。月例訓練があると聞いて潜入すると、目を疑う光景が飛び込んできた。震度6強が能登を襲った「あの日」を思い起こすがれきの山。ここが災害に立ち向かう犬たちの最前線だった。

(正札武晴)

別世界は森林公園の東側、吉倉口付近にあった。早朝から将来の救助犬を目指す犬約二十頭とその飼い主が集結している。犬種も大きさもまちまち。警察犬のように跳びかかってくるのでは、と先入観は、県救助犬協会連合会の松平博之会長(五)が消してくれた。「立っている人には無関心。うすくまったりしている人にだけ反応する」。確かに人にいちいち反応し

再現倒壊家屋 最大級の施設

た「倒壊家屋」だ。犬たちは山に登り、鼻を突き上げ何か探っている。「空中に漂う『生きています』特有の臭い」をかき取っているんだ」と松平会長が教えてくれた。やがて犬はすき間に隠れていた人を見つけ、吠えて知らせた。犬には隠れんぼのようなゲームで、人を見つけ、褒めて遊んでもらえることがうれしいのだ。



人が隠れるすき間やトンネルが幾つもあり、嗅覚で居場所を突き止める

生存者特有の臭いがれきの山はざっと五百坪、高さ二層はあろうか。同会が廃材やコンクリート塊を集めて再現した。広くて交通アクセスが良く、近くに民家がなく犬が吠えても迷惑にならないなど「好条件の重なる最高の場所」という。津幡町と町議会も訓練施設誘致に積極的だっ

訓練施設は二〇〇四(平成十六)年度に整備された。でもなぜ森林公園なのか。訓練中の男性に尋ねると答えは明快だった。広くて交通アクセスが良く、近くに民家がなく犬が吠えても迷惑にならないなど「好条件の重なる最高の場所」という。津幡町と町議会も訓練施設誘致に積極的だっ

命令を聞かせる服従の指導も含め、犬によってはこちらで一年ほど訓練を積み、災害現場で活躍できるレベルになるとい

う。ただ本当に活躍できるかは自治体トップの採配次第とか。

生死分ける48時間

がれきに埋もれた生存者

者が助かるかどうかの分かれ道は、四十八時間とされる。救助犬は鼻が利くとはいえ、被災地を闊歩に回れば時が過ぎていく。首長が行方不明者の多い地区を見極めて的確に指示できるかに命が掛かる。「能登半島地震で(文秋)市長の指示は『すぐ道下に行け』で的確だった。幸いがれきの下に人もいなかった」(松平会長)。県外のある被災地では情報不足で指示できない自治体もあったという。

地震から二年。がれきの山で頑張る犬を見て、お世話にならないよう防災意識を高めたいと強く感じた。犬の嗅覚のように、人には過去の教訓を生かせるという特技がある。使わない手はない。

災害救助の
嘱託犬に10頭

県審査会

石川県災害救助犬審査会は二十六日、津幡町の県森林公園内の訓練施設で開かれ、災害時の生存者捜索や救助活動に対応できると認められた十頭が県の嘱託犬となった。

審査会には二十四頭が出場し、指導手の指示を守る服従審査や、平均台を渡る障害物通過審査、がれき内の捜索審査を受けた。嘱託犬の指導手は次の皆さん。

- 高井良治、西村外茂次、内田俊夫、中村真規子、浦田美樹、赤崎美香、大蔵信之



命を聞かせる服従の指導も含め、犬によってはこちらで一年ほど訓練を積み、災害現場で活躍できるレベルになるとい

う。ただ本当に活躍できるかは自治体トップの採配次第とか。

生死分ける48時間

がれきに埋もれた生存者

者が助かるかどうかの分かれ道は、四十八時間とされる。救助犬は鼻が利くとはいえ、被災地を闊歩に回れば時が過ぎていく。首長が行方不明者の多い地区を見極めて的確に指示できるかに命が掛かる。「能登半島地震で(文秋)市長の指示は『すぐ道下に行け』で的確だった。幸いがれきの下に人もいなかった」(松平会長)。県外のある被災地では情報不足で指示できない自治体もあったという。

審査会には二十四頭が出場し、指導手の指示を守る服従審査や、平均台を渡る障害物通過審査、がれき内の捜索審査を受けた。嘱託犬の指導手は次の皆さん。

- 高井良治、西村外茂次、内田俊夫、中村真規子、浦田美樹、赤崎美香、大蔵信之